

平成23年度

出雲市大社地域の活性化を目指す

「子ども・若者公民館活動」



「子ども・若者公民館活動」実行委員会

も く じ

1 「子ども・若者公民館活動」について	1
(1) 趣旨	
(2) 学校と地域の総合的活性化の目指すところ	
(3) 事業主体	
(4) 実行委員会の構成	
(5) 事業計画	
2 子ども・若者公民館の実践	3
(1) 大社中学校若者公民館の実践	
(2) 大社小学校子ども公民館の実践	
(3) 荒木小学校子ども公民館の実践	
(4) 遙堪小学校子ども公民館の実践	
(5) 鶉鷺小学校子ども公民館の実践	
(6) 日御碕小学校子ども公民館の実践	
3 まとめ	47

1. 「子ども・若者公民館活動」について

(1) 趣旨

出雲市大社地域は、観光地として、また、西日本有数の門前町として、毎年多くの観光客・参拝者が訪れ、活況を呈していたが、近年、観光客のニーズも多様化するなどして減少し、門前町もかつての賑わいが見られなくなってきた。

市でも門前町の再興を期し、道路整備や神門通りへの物販店等の誘致を進めてきたが、昭和の時代を知る者からすると、寂しい限りである。

大社地域は、他の地域にはない観光スポットを数多く有し、その中心的位置にある出雲大社では、平成25年5月に、60年に一度の大遷宮が行われることから、大社町民をはじめ、県内外の関心も今後さらに高まっていくことと考えられる。

また、学校では、ふるさと教育をとおして地域の歴史や文化、豊かな自然について知るとともに、身近にいる素晴らしい人についても学習してきている。

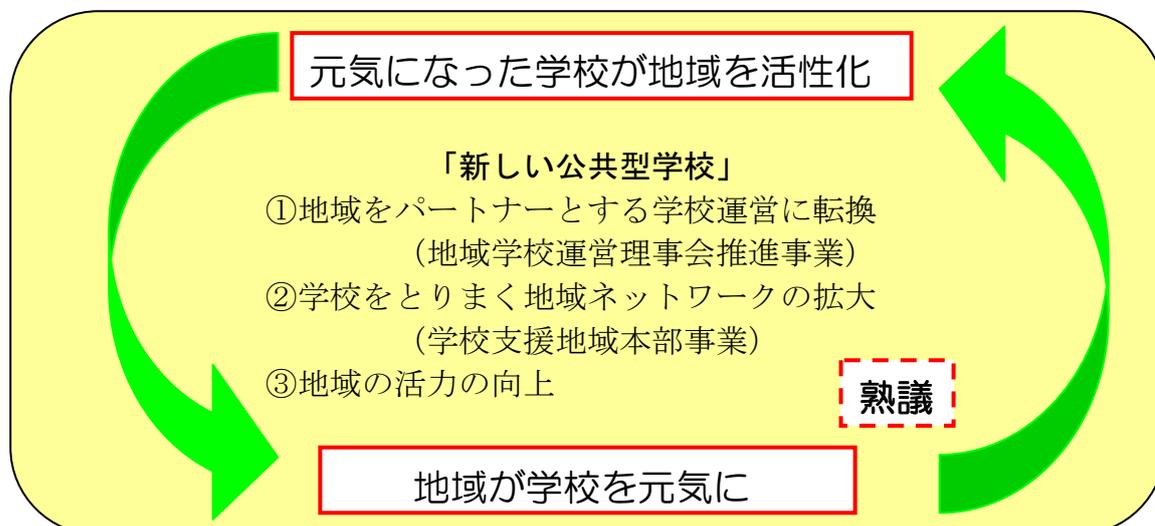
こうしたことを踏まえ、大社地域の学校（1中学校、5小学校）内に「子ども（児童）・若者（生徒）公民館」を設置し、地域の社会教育施設（各地区コミュニティセンター）や地元企業、NPO等地域住民と連携・協力し、児童生徒が主体的に地域に働きかける（地域を結びつける）取組や修学旅行などの旅行先で大社地域をPRするような取組を行っていくことにより、大社地域の賑わいを取り戻すなど、学校と地域を総合的に活性化させようとするものである。

(2) 学校と地域の総合的活性化の目指すところ

これまでの学校は、学力や体力、規範意識など様々な課題に対して、地域学校運営理事会やPTA、学校支援地域本部、放課後子ども教室などで地域が学校を支えるということが主であった。

しかし、これからの学校は、地域に支えられるだけでなく、地域や地域の課題に対して積極的に働き掛けて、地域を活性化させていこうとする「新しい公共」型学校になっていくことが求められている。

つまり、地域が学校を元気にし、元気になった学校が地域を活性化する好循環作りを進めるモデル開発を行うことが、学校と地域の総合的な活性化の目指すところである。

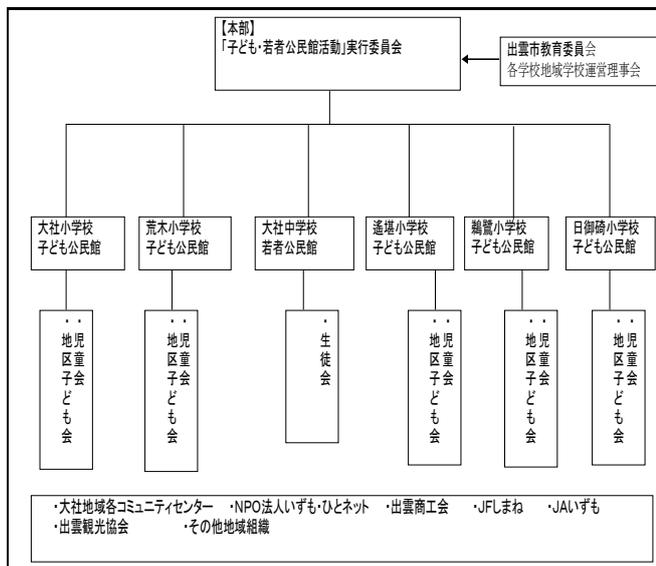


(3) 事業主体

「子ども・若者公民館活動」実行委員会

(4) 実行委員会の構成

- ① 大社中学校若者公民館
- ② 大社小学校子ども公民館
- ③ 荒木小学校子ども公民館
- ④ 遙堪小学校子ども公民館
- ⑤ 鶉鷺小学校子ども公民館
- ⑥ 日御碕小学校子ども公民館
- ⑦ 大社地域各コミュニティセンター
- ⑧ NPO 法人いずも・ひとネット
- ⑨ 出雲商工会
- ⑩ JFしまね大社支所
- ⑪ JAいずも大社地域店
- ⑫ 出雲観光協会
- ⑬ その他地域組織



(5) 事業計画

- ① 「子ども・若者公民館」の設置
 - ア) 児童会・生徒会の組織内に子ども（若者）公民館を開設する。
- ② コーディネーターの配置
 - ア) トータルコーディネーターを本部に1名配置する。
 - イ) 各学校に1名の学校コーディネーターを配置する。
- ③ 地域活性化の方途を探るための地域の歴史、文化、特性・特長等の調査・研究
- ④ コーディネーターが、地域、地元企業、NPO法人等の学校に対するニーズを吸い上げ、「子ども・若者公民館」が実践
- ⑤ 「子ども・若者公民館」が提案する地域活性化策の実践
 - ア) 町づくり参画
 - イ) 地域や観光客へのあいさつ運動
 - ウ) おもてなし運動
 - エ) 大社地域のPR活動
 - ・キッズガイドマップの作成・配付
 - ・修学旅行等での地域宣伝
 - オ) 地域活動への参加と発信
- ⑥ HPの作成
- ⑦ 研修会
- ⑧ 活動のまとめ

大社中学校若者公民館活動の実践

I 地理的な特色

大社町は、出雲市の北部に位置し、縁結びの神様として知られている大国主命を祀った出雲大社の門前町として古くから栄えてきた。美しい海岸線を誇る日御碕、なだらかな曲線をえがく園の長浜、東洋一の高さの日御碕灯台、「古事記」などの出雲神話に代表される古代からの歴史や文化など、多くの観光資源を有している。また、歌舞伎の始祖といわれる「出雲阿国」の生誕地でもあり、年間400万人の観光客が訪れる県内屈指の観光地である。しかし、近年観光客や大社町内での宿泊客が減少傾向にあり、観光産業の復興が叫ばれている。そこで、60年に一度の「大遷宮」や古事記編纂1300年に合わせ、神門通りの歩道や街並の整備、地域活性化に向けた事業が動き出している。

世帯数は約5200戸、人口約15000人である。産業としては、荒木地区を中心としたブドウづくりが盛んであり、県内一のデラウェア産地である。

保護者の職業は、公務員、会社員、自営業者などが多い。そして、共働き家庭が年々増加している傾向にあるが、保護者や地域の教育への関心は高く、学校教育全般についての支援も大である。

II 生徒の実態

大社中学校は、生徒数391名、普通学級11、特別支援学級3の中規模校である。校区内には、大社小・荒木小・遙堪小・日御碕小・鶉鷺小の5つの小学校がある。

生徒は比較的穏やかで温厚な性格であり、生徒指導上の問題もほとんどない。部活動は盛んであり、生徒も熱心に活動している。特に、運動部は毎年多くの部活が、中国大会や全国大会に出場しており、岸記念賞も10回受賞している。しかし、近年は生徒数の減少にともない部員の確保に苦慮する部活もあり、見直しが検討されている。

学習には比較的熱心に取り組み、県の学力調査でも好成績を上げている。しかし、家庭学習に十分な時間がとれない生徒、学習のしかたが身につけていない生徒も少なくない。

そして、自分の考えや思いを人に伝えたり、相手の気持ちを思いやったりすることが苦手とする生徒も多い。

また、放課後や休業日には部活動に時間が取られ、ボランティア活動や地域行事への参加、地域と交流する機会も小学校時に比べると少なくなっている。

そのような実態から、平成23年度の学校教育目標及び目指す生徒像を以下のように設定した。今年度から始まった「若者公民館活動」は人との交流や地域への働きかけ、ボランティア活動などを通して、地域を活性化するための事業であり、学校教育目標や目指す生徒像を実現するために有効であると考えられる。

※ 平成23年度 学校教育目標

地域・家庭と協働し、「ともに考え、たくましく実践し、人間性豊かな生徒」の育成

※ 目指す生徒像

- ともに考える生徒
- たくましく実践する生徒
- 人間性豊かな生徒
- 自分を大切にする生徒

目指す生徒像に迫るための具体的な項目の中から、若者公民館活動に関連する4つのねらいを設定し、教科・領域、学年活動などとも関連させながら、生徒会が中心となって活動を推進している。

- ①社会（集団）の一員としての自覚と責任を持って、他とともによりよい社会（集団）を築こうとする。
- ②ふるさとのよさを知り、ふるさとを愛し、誇りを持つことができる。
- ③社会貢献の大切さを認識し、奉仕活動やボランティア活動に主体的に参加できる。
- ④ルールやマナーを守って、日常の生活ができる。

Ⅲ 具体的な取り組みの内容

（1）町づくりへの参画

出雲市行政サイドでも、大社地域の活性化に向けた施策が実施され、神門通りの舗道の拡幅、勢だまり周辺の整備などの工事がすすめられている。また、地元の有志「神門通りよみがえりの会」でも、土産物店の誘致や街並みの整備、情報紙の発行やPR活動など、にぎわいを創出する取組が展開されている。

3年生の公民分野では、地域や郷土に関連した内容として「神門通りの活性化」をテーマに取り上げて、地域の人や観光客を対象としたアンケート調査を実施した。授業では、アンケート結果から大社地域の抱える様々な課題を見つけ、活性化に向けた改善策やアイデアなどを、班ごとにまとめ、学級での話し合いへと発展させた。

12月にあった「町づくり懇談会ティーンズ」でも、クラスごとにテーマを決め、出雲市長さんへ自分たちのアイデアを伝えたり、提案発表を行ったりした。



生徒の質問に答える出雲市長さん



(2) あいさつ運動

以前から生徒会を中心に、早朝から校門近くに当番の生徒が並び、登校してきた生徒や教職員にあいさつを行っている。そのため、大社中学校では自然と生徒同士や教職員、来校者に対してあいさつができています。登下校時にも、地域の方や観光客の方に対しても、多くの生徒は自然とあいさつを交わしている姿を見かける。



生徒昇降口でのあいさつ運動

また、来校者に対しても元気のよい挨拶ができ、多くの方から「大社中の生徒はあいさつがよくできる。」との評価をもらっている。今後は、校内だけでなく、地域の方にも広くあいさつの輪が広がるような、あいさつ運動にしていきたい。

(3) ボランティア活動



神門通りの清掃



校舎周辺の松葉の回収

学年会や生徒会で計画し、校門周辺や校地内の落ち葉はきなどの清掃ボランティアも行っている。昨年の2学期に強風が吹いた時には、翌朝学校周辺の道路にはたくさんの松葉が落ちており、生徒会が中心になって、生徒に呼びかけて清掃活動を行った。

また、夏休みや冬休み中に、神門通りを毎日清掃している部活動もある。「マイほうき」「マイちりとり」をもって活動している。観光客の方に元気のよい挨拶をしたり、道がわからなくて困っている人に声をかけたりするなど、ただ掃除をするだけでなく、観光客を迎える大社地域の一員としての自覚を持って活動している。「生徒のがんばっている姿に感心した。」「道がわからなくて困っているときに、ていねいに案内してもらって助かった。」など、学校に感謝の気持ちを伝える連絡が、何回かあった。

(4) PR活動

島根県や出雲市を広くPRする活動としては、学校のホームページを活用して、大社地域の伝統や文化・地域の行事などを中学生の立場で紹介すること、修学旅行でのPR活動などが考えられる。

すでに来年度の修学旅行の日程や活動内容は決まっており、大幅な変更はできないが日程に余裕があれば、修学旅行先でのパンフレット配布や島根県や出雲市をPRする活動を短時間でも計画したい。

(5) 地域活動への参加と発信

①「若者公民館活動」にかかわる情報発信や活動紹介

中学校のホームページに「若者公民館活動」のページを設け、11月から情報を発信している。「総合的な学習の時間」「地域のボランティア活動」「町づくり懇談会ティーンズ」などのようすを紹介している。

また、「校報」や「学校運営理事会だより」にも、「若者公民館」に関する記事を取り上げ、保護者や地域への周知を図った。

②地域活動への参加

地区の体育祭、コミセンの行事やボランティア活動など、地域やコミセン単位での活動に進んで参加している生徒もたくさんいる。

今年の正月には、大社町の伝統行事である「吉兆さん」に野球部と剣道部の生徒20人が参加した。以前から各町内持ち回りで行われていた行事だが、少子高齢化にともない参加者の不足に苦慮されていること、地域の伝統行事を中学生にも体験させたい、地域の人材を大切に育てたいなどの思いが重なって、「吉兆さん」への参加となった。

朝から冷え込み、雨や雪がちらつく中、法被を着た生徒たちは、幡を立てたり鑿を引っ張ったりしながら、地域の方とともに町内を巡行し、出雲大社に参拝しました。地域の伝統行事に直接触れるまたとない機会であり、貴重な体験をした。



町内を巡行する中学生



(6) その他

本校では「総合的な学習の時間」を活用して、2年生で「職場体験学習」、3年では「スクラム学習」を実施している。「スクラム学習」は、地域講師にお願いして、大社地域の伝統や文化にふれる、大社地域に関係した特色ある活動を展開している。今年は「茶道」「祝いタコ」「生け花」「郷土料理」「出雲弁」など6講座を開講した。

「茶道コース」の生徒たちは、文化祭でお茶席を設け、多くの保護者や地域の方を招いて、学習成果を発表する場とした。同時に、接客マナーやおもてなしの心も学んだ。



文化祭での「お茶席」のようす

2年生の「職場体験学習」でも、おもてなしの心や接客の仕方について体験的に学習した。職場体験学習は、市内全ての中学校で実施されているが、特に大社地域は飲食店や土産物屋など、観光客を扱う店がほとんどで、接客マナー、あいさつや笑顔、相手の立場に立った行動など、「おもてなしの心」を大切にしている事業所が多く、生徒たちも、いつもとは違う視点から体験することができた。



土産物店での商品の陳列



接客の基本は笑顔と挨拶

IV 成果と課題（アンケートの集計結果より）

2月下旬に生徒（一部）、教職員（全員）、保護者（一部）、地域学校運営理事（全員）を対象に、アンケート調査を実施した。その結果や意見をもとに今年度の取り組みを振り返り、成果と課題をいくつか取り上げてみた。

（1）よかった点

- ①生徒が郷土や地域のことに関心を持ち、自分のこととして活性化をとらえていた。
 - ・「自分たちの町を自分たちの手で発展させることは、素晴らしいと思った。僕たちも、なるべく観光客の方にあいさつなどをしていきたい。」（生徒）
 - ・「何気なく住んでいる場所を見ていた子供たちが、改めて地域を見直し、新しい発見があったことがとても大きいと思いました。今の年頃にこうした発見をしてくれたことが、私たちには大変うれしく力強く思いました」（地域学校運営理事）
- ②あいさつ運動やボランティア活動を通じて、中学生と地域の方が、さわやかなあいさつを交わしたり、交流の場をもつことができた。
 - ・「地域の方に積極的にあいさつができてよかった。」（生徒）
 - ・「あいさつやボランティア活動を通して、地域の方とつながりを持ててよかった。」
 - ・「大社のよさを広めるため、観光PR大使をつとめたい」（生徒）
- ③生徒の活動する姿から、保護者や地域の方の協力体制ができつつある。
 - ・「少しずつ周知がなされているようですが、これからも広報活動がんばってください。保護者としても、協力できることがあればと思っています。」（保護者）

（2）課題と次年度の計画

- ①広報活動に努めたが、保護者や地域の方の中には知らない人もあり、「若者公民館」の活動を、いっそう地域や保護者へ周知できるよう工夫する。
 - ・「地域に生徒が出かけている情報を発信することが大切。保護者や関係者は知っているが、他の住民が知っていないことが多い。コミセンへの掲示・町内会の回覧板等を活用して、子供の姿を地域に発信することが一番」（地域学校運営理事）
- ②新しい活動を立ち上げるだけでなく、今ある活動を「若者公民館活動」のねらいにそって見直すなど、生徒も教員も負担が大きくなるようにする。
 - ・「**五えん**（人がつながる**縁**・気持ちをひとつにする**円**・熱中して取り組む**炎**・互いに助け合う**援**・イベントを楽しむenjoyの**エン**）を大切にしながら、おもてなし活動を進めていきたい。」（生徒）
 - ・「現在行っている活動を、若者公民館活動の視点で見直していく。なお、生徒の負担が大きくなるように配慮する。」（教員）

来年度は、地域とのかかわりや交流・活性化の観点から、今年の活動計画・全体計画を見直し、教職員間の共通理解を深めながら、生徒や保護者・地域にとっても楽しく元気が出るような「若者公民館」活動になるよう、継続的に取り組んでいきたい。

大社小学校子ども公民館の実践

I 地理的な特色

本校は、出雲市の西に位置し、出雲神話と出雲大社のお膝元、歴史と観光の町であると同時に海の恵みを生かした伝統産業と商業の町でもある。

地域の教育力の点からも、大社地区は学校への関心が高く、教育活動への惜しみない助力を得ている。

平成19年度から「コミュニティースクール調査研究校」として2年間、地域の人々とともに学校の教育活動を実施し、大きな成果を上げた。そして、現在も「きづき学校応援隊」として残っており、学校に地域の方々が積極的に支援してくださっている。



II 児童等の実態

全校児童288名である。児童は、素直で明るく比較的落ち着いた雰囲気があり、決められた仕事は熱心に取り組む。地域の行事に積極的に参加し、校内では進んであいさつをしたり、笑顔で話したりすることができる。

校庭が、芝生で環境に恵まれており、晴れた日には元気よく外で遊ぶ児童が多い。



図書室も本が充実しており、休憩時間に進んで読書する児童の姿も多くみられる。

縦割り活動では、体育会や縄跳び大会を行い、全校が仲良く活動できる。

しかし、自分で考え、進んで行動したり、自分の思いを豊かに表現したりすることはやや苦手という傾向にある。

Ⅲ 具体的な取組の内容

今年度から、大社町内小学校5校と中学校1校の6校で「子ども・若者公民館活動」が始まった。この活動は、地域の方とかかわりながら大社のよさを発見したり、観光地である大社のよさを発見したり、観光地である大社地域をPRしたりすることを通して、ふるさと大社を元気にするための活動である。

子ども公民館活動の中心となったのは、児童会アイデア委員会である。5・6年の14名のメンバーで活動内容を話し合った。その話し合いで、あいさつ運動の推進、歴史博物館での生け花の継続、学校周辺での清掃活動、また学年でのふるさと学習の掲示などがあがった。

(1) あいさつ運動

児童会のアイデア委員会を中心に、校門や昇降口などであいさつ運動をしている。登校してくる友達へのあいさつは、みんなが元気いっぱい声を出している。月に何回か挨拶運動にきてくださる地域の人々には、元気いっぱいハイタッチをする児童もいる。

また、学校の前を通過して通勤される地域の方々にも元気なあいさつをしている。校門では地域の方にもあいさつの輪を広げたいと考えてよびかけている。地域の方々にもあいさつを返してもらっている。



(2) おもてなし運動

①歴史博物館での生け花活動



大社小学校では、以前から委員会ごとに古代出雲歴史博物館を訪れ、生け花活動を実施している。古代歴史博物館にはたくさんの観光客が来られ、おもてなしにふさわしい場所である。地域のボランティアの方々と一緒に生けた花は、博物館内に飾られ、観光客のみなさんにみてもらった。もてなしの心をもちながら活動している。



②作品展示

歴史博物館では、6年生が作った天の岩戸の図工作品を、施設内に展示している。観光客の方々にも喜んで鑑賞してもらっている。



また、妖怪クラブは、児童の考えたオリジナルの神様を掲示してもらっている。



③交通公園の清掃活動

委員会活動で、学校の東側にある「交通広場」の清掃活動をした。全国からいらっしやる観光客の方々に気持ち良く使っていただけるように活動した。思



ったよりもたくさんのゴミがあり袋いっぱいになった。

また、学年で下校する時、ごみ拾いをした。

(3) PR活動

①学年の取組

各学年では、社会科学習の取組の中でPR活動を進めてきた。

ア 3年生

社会科学習で「出雲市じまんクイズ」を作成した。このクイズは、出雲市内のいろいろな町を探検し、学習したことをもとに、地域の特徴や特産物などを楽しいクイズにして、出雲市について紹介したものである。神門通りのお店（香りプレッセ）に掲示している。



イ 4年生

社会科学習で、大社のぶどう産業の歴史について調べたことを『大社ぶどうすごろく』にまとめた。このすごろくは、今年出荷されるぶどうと一緒に全国各地に皆さんに届けられる。全国の皆さんに、大社ぶどうの歴史やぶどう栽培の工夫や努力、大社の魅力を伝えることができる。

このすごろくは、島根日日新聞や山陰中央新報にも取り上げられ紹介された。



ウ 5年生

社会科学習の情報の学習で、11月に町内一斉防災避難訓練に参加し、地域の安全や人々の安全を守る活動の大切さを学んだ。そして、大社支所地域振興課の方から、その情報システムについて詳しくお話を聞き、「防災ネットワーク子ども会議」を開いた。学習したことをまとめたものを大社コミュニティセンターに展示してもらい、地域住民の方の防災意識を高めた。



エ 6年生

社会科の政治の働きで開発が進む神門通りについて学習した。神門通りにあるお店の方や観光客の皆さんからご意見を聞き、神門通りのにぎわい作りのアイデアを考え、クラスで話し合った。

それぞれのアイデアを、神門通りの「PR館」で展示してもらい、観光客の方々にも理解してもらえるようにした。



②地域行事での子ども公民館活動の取組発表

2月5日大社町おもてなし活動総決起集会に集まれた大社町民の前で大社小学校の子ども公民館活動の取組を発表し、多くの人に発信することができた。



③全校児童へのよびかけ

2月8日の全校朝礼で、委員会の児童が大社小学校の公民館活動の取組を発表し、これからもあいさつ運動、おもてなし活動を続けていこうと呼びかけた。

(4) 地域活動への参加と発信

6年生は、家庭科の学習で近隣の人々のくらしで、コミュニティセンターで地域の人々とゴミ拾いをしたり、プランタに絵を書いたりする活動も予定している。地域と一体になって活動することで、より地域を身近に考えることができると考える。

また、さまざまな活動をホームページに掲載したり、学校便りや地域学校運営理事会だよりとして、保護者や地域への配布をしたりした。

IV 成果と課題

(1) よかった点

・大社小学校は、子ども公民館活動を決して特別なものとは考えず、子どもの教育活動に寄り添って自然にできることを実践してきた。そのため、公民館活動は子どもにとって当たり前のように受け入れられた。今まで行っていた活動に対して、地域を元気にできるという意識をもってより意欲的に取り組むことができた。今まで行っていなかった清掃活動も児童の中から意見が出てきて実施することができた。

・ふるさと大社のよさをますます実感することができた。そして、たくさん地域の温かい心にふれることができ、豊かな心の育成をすることができたことと確信している。

・社会科では、学んだことを生かす社会参画の必要性が叫ばれているが、公民館活動により、地域と密接につながり、課題に対して社会とのかかわりを実感しながら、学んだことを生かす学習ができたことは何より大きな収穫であった。

・うらら館で発表を聞かれた地域の方からあいさつ運動や奉仕活動など児童が、がんばっているので地域の町内の大人ががんばらないといけないという意見もいただいた。

・保護者や地域の方々のアンケートから地域の活性化につながっているという意識が高まった。児童も地域を元気にしようと取り組むことができた。

(2) 課題と次年度の計画

・今後は、地域へあいさつ活動をどのように広げるかを考えたい。校内では挨拶ができるが、まだ地域での積極的なあいさつ運動は定着していないのが課題である。

・次年度への計画は、本年度実施したことを継続し、さらに出雲大社地域の活性化を目指していきたい。

荒木小学校子ども公民館の実践

I 地理的な特色

出雲市の表玄関、一畑電鉄出雲大社前駅から南に徒歩10分のところに位置し、校区は中荒木、北荒木、修理免の三大字からなり、大社町の南部から東部にかけての平地を占めている。近年、農地が減少し宅地が増えている。この地方特有の築地松（黒松）も多く見られる。校区の大半の地域は、北西の強い季節風を受ける砂地乾燥地で、過去に用水不足など開発がおくっていた。およそ300年前郷土の恩人大楯七兵衛による防風林の植樹成功や、高瀬川用水路の完成等の大偉業完成によって開拓されてきた比較的歴史の浅い土地である。農家は全戸数の約5分の1で、大部分は兼業農家である。過去の稲作、養蚕中心から養鶏、養豚、酪農、たばこ栽培へ、そして現在はほとんどがブドウのハウス栽培へと転換している。宅地の増加に伴い、世帯数・人口に急激な減少はない。児童数もやや減少、横ばい傾向である。

II 児童等の実態（課題）

本校の子どもたちは、明るく素直で、友達と仲良く活動できる。学習意欲もあり、課題に積極的に取り組もうとするが、自ら課題を見つけて追求したり自分の考えを人と伝え合ったりしていこうとする力は十分身につけていない。文章を読んだり情報を収集したりすることは好むが、自分の考えを書いたり話したり、さらに友達と伝え合って自分の考えを深めたりすることは苦手とする子どもが多い。また、語彙量も少なく、自分の思いが上手く言葉で言い表せず、表現力も乏しいことから、コミュニケーションが上手くとれない子どもの姿も見られる。

III 具体的な取組の内容

(1) あいさつ運動

① 町内一斉あいさつ運動

期間：1学期7月11日～20日

2学期9月12日～19日

3学期1月23日～31日

これまで小学校・中学校で一貫教育の取組として行っていたあいさつ運動を、今年度からは幼稚園・保育園も連携し、保・幼・小・中が一貫して取り組んだ。学期に1回子どもたちが有線放送で地域によびかけるとともに、大人も一緒に取り組んでいる。



(2) おもてなし運動

①旧JR大社駅周辺の美化活動

これまで校内の美化活動として行っていた「全校クリーン活動」を、今回は3月6日の昼休みに、駅舎周辺を中心とした草取りやごみ拾いを地域のかたにもよびかけて一緒に行った。



(3) PR活動

①作品等の掲示

子どもたちの絵画作品・造形作品、いつもお世話になっている地域の方々へのお礼の手紙を荒木コミュニティセンターに展示した。地域の方には「コミュニティセンターだより」にて告知していただいている。



造形作品



絵画作品



地域ボランティアの方へのお礼の手紙



②学校だより掲示

校長室だより・学校だよりをコミュニティセンターと荒木郵便局に掲示しています。



荒木コミュニティセンター



荒木郵便局

(4) 地域活動への参加と発信

①ふれあいサロン交流<5年生>

1月27日(金)に荒木コミュニティセンターにおいて、荒木地区の高齢者の方と5年生が交流する「サロン」があった。5年生は、1学期から総合的学習の時間(ゆうゆうタイム)で「プロジェクトあい」という名称で福祉をテーマに様々な活動に取り組んできた。



歌とダンスの発表



ふれあいタイム



大きな声でかるたとり

はじめは緊張気味の子どもたちも次第に笑顔がこぼれ、高齢者の方も一緒に楽しく、和やかな雰囲気ですべてが進んだ。

次に町で出会ったら、笑顔であいさつが交わされるのではないだろうか。子どもたちも高齢者さんもみんなが笑顔に、そして元気になる交流会だった。

②荒木幼稚園との交流会<5年生>

これまでの活動として、1回目は6月8日に園児と5年生のペアを決め、名札を手作り、2回目は7月4日に学校のプールでの水遊び、3回目は9月12日にミニ運動会、4回目12月7日(水)に荒木幼稚園での交流会を行った。



合唱や合奏のプレゼント交換



5年生からの歌のプレゼントでは園児のみなさんが夢中になって聴いている姿が印象的だった。ペアで手をつなぎ、クリスマスリース作りでは「ここはどうしようか?」「どんなふうになりたい?」と声をかけたり、いつしかリース作りに夢中になってしまうお兄さん・お姉さんもあった。



リース作り



「今回は遊ぶだけでなく、一緒にもの（リース）を作ることができてよかった。」との感想が子どもから出た。4回目ともなり、また毎回同じペアなので、自然に接している様子が頼もしくうつった。継続活動であることも効果を高め、園児にとっても、入学に対する不安を解消し小学校入学への期待をもてる活動になっている。

5回目の幼稚園との交流会「ようこそ荒木小学校へ」が3月5日にあり、もうすぐ入学の年長児が荒木小学校にやってきた。各ペアで手をつなぎ、1年生の教室など校内の案内をし、体育館で一緒に楽しくふれあいあそびをし、「来年は6年生と1年生で交流しましょう。」と声をかけた。



校内の案内をする5年生



体育館でのふれあいあそびタイム

③「ふれあい活動」＜1年生＞

12月9日荒木サポートセンターで高齢者さんとのふれあい活動を行った。



○「ジングルベル♪」歌と踊りを発表 手をあわせて一緒に歌もうたった。

○はたらく車・乗り物しらべを発表

「よ～おぼえて」「1年生だがあ」とうなずきながら感心して聞いておられ、子どもたちもおおきな声でゆっくりと、聞き取りやすく説明ができた。



大きな声ではっきりと
発表です



○ふれ愛レター

ふれ愛レターには手紙と乗り物のイラストがかかれており、「ふれ愛レターです。」と、それぞれ声をかけながら渡した。



「上手に書に書けているね」



「これから、寒くなるので おからだに気を付けてください。」と声をかけ「さようなら」をした。みぞれ混じりの寒い日でしたが、心がほっこりとにこにこ笑顔の多い活動だった。

(5) その他

①「わたしたちのあらきを見てちょうだい」〈2年生〉

生活科の学習で荒木のとおきおきの場所の探検に行った。



自分たちで調べたことを、各グループで探検新聞にして校内に掲示し、10月の授業公開の際などに地域の方にも見ていただいた。



11月19日のわくわく発表会では、そこで働く人、工夫しておられることを紹介しながら、歌とダンスで紹介し、「ごみをすてないで!」「荒木をきれいにしましょう」とよびかけた。

そしてもっとももっとも!! 荒木が大好きになりました!!



保護者の方に感想をいただきました

- ・荒木の町のことがよくわかった。
- ・荒木にたくさんいい所があることがわかった。
- ・荒木っ子の底力を見せてもらった。
- ・自分たちが見聞きしたからこそ、生き生きとしていた。

②総合的な学習の時間「大槌七兵衛」についての学習<4年生>

7月にこれまで調べ学習を行ってきた「大槌七兵衛」について、旧 JR 大社駅で行われた「大槌まつり」で発表し、11月9日には各グループにわかれて地域講師さんによる授業が行われた。

- ・八通山・高瀬川について歴史背景と地形「いまとむかし」について
- ・荒木小学校の校歌、歌詞の変遷についてと地形の変化と荒木地区にある寺社について
- ・高瀬川のできるまでと構造・役わりと高瀬川沿いの村についてと携わった偉人について

地域講師の方々がそれぞれ、プリントや模造紙等で資料を用意してわかりやすく説明してくださり、子どもたちは質問をし、熱心にメモ・記録をしていた。



11月19日 わくわく発表会でこれまでの学習をもとにオリジナルの劇「七兵衛さん 2011 ～意外伝～」を発表した。郷土を拓いた偉人、大槌七兵衛さん。高瀬川・防風林などについて熟知して親しみとユーモアを持って楽しく発表できた。

<感想をいただきました>

- ・地元のいろいろな情報を知ることができて勉強になった。
- ・大槌まつりよりも、目でみられる巻物があってよくわかった
- ・4年生の発表を毎年楽しみにしている。その年の学年がいろいろな七兵衛さん像を披露してくれる。
- ・下の学年の子供たちにもよくわかる。



③荒木の博士になろう<3年生>

2月11日 重要文化財 旧大社駅 調べ

小学校のすぐ近く、旧J R大社駅についての調べ学習にでかけました。当日は駅舎に詳しい出雲市の職員の方にお話を聞きました。子どもたちにとっては「あそぶところ」の駅舎ですが、そこにはたくさんの歴史とひみつ・工夫があることを学習し、お話をうかがった後の探検では、また新たな疑問をたくさんみつけました。これからも調べ学習を続けていきます。



「これはなんだろう？」



この他3年生では、吉兆館・浜遊自然館・浜山公園・カミアリーナなどについても調べ学習を進めている。生まれた時から既にそこにあって、当たり前前の風景や施設も調べを進めると興味深く、関心のある様子がみられる。学習してきたことを地域の方や観光客の方にも情報発信していきたい。



IV 成果と課題

(1) よかった点

- ・「子ども公民館活動」の名称は研修会等で地域学校運営理事等の一部の方々には周知できたように思う。
- ・これまで地域の住民の皆さんの支援を得て学習してきたことに意識を持って地域の活性化のために情報発信し、地域の方に知ってもらうことにより、子どもたちの意欲も生まれたのではないかと思う。また、その気持ちがさらに還元され「子どもたちのために応援してあげよう」という地域の方々の声を聞くことができ、活性化のサイクルが生まれ始めたように感じている。
- ・「町内一斉挨拶運動」についてはこれまでも行っていたので、ほとんどの方が知っており、定着している活動になっている。子どもたちのアンケートからも「あいさつを進んでできてよかった。」「地域の方とふれあうときがあった。よかった。」との声があった。

(2) 課題と次年度の計画

- ・年度途中でのスタートとなり、指導者の共通理解もないままに計画的に進めることができなかった。子どもたちからの発信となるよう、また、継続的な活動となるように計画立てや検討が必要と思われる。
- ・地域の特性として、観光地や観光客へのおもてなし事業は取組が難しい点もあるが、荒木地区だけでなく大社町全体にも目をむけておもてなしの心を育てていきたい。
- ・あいさつ運動は定着しているが、「進んであいさつができる」までには、今後も保護者や地域住民の方との連携と協力が不可欠。
- ・子どもたちがふるさとを愛し、地域の皆さんとの関わりを楽しみ、自ら課題を見つけ追求できるように地域の皆さんの支援を受けながら共に活性化できる活動となるよう実施していきたい。

遙堪小学校子ども公民館の実践

I 地理的な特色

遙堪地区は、出雲大社の東方に位置し、北山山麓から南へ沖積層の耕地が開け、旧菱根干拓地から西南の県立浜山公園へつづく農村地帯であり、稲作を中心に、ぶどう生産も盛んな地域である。

学校の周りには田園が広がっており、また、南側には高浜川が流れており、自然豊かな環境に恵まれている。

地理的な特色を活かしながらダイナミックな体験活動を計画的に実施することができる。



II 児童等の実態（課題も含めて）

児童は、素直で明るく、協力し合って学校生活をおくっている。全校合唱では、児童全員が澄んだ歌声で、気持ちをこめて歌うことができる。毎年実施している“ようかんっ子フェスタ”（学習発表会）では、表現力を豊かに発揮している。

また、本校では、「ハイタッチあいさつ」の運動をこれまで進めてきており、児童にも定着し、自ら進んであいさつを行うことができるようになっている。

さらに、体育会などの集団的な活動の場面では、グループでまとまり、助け合いながら活動を進めることができる。

一方、自分の思いを友だちなどに十分に伝えることができなくて困ってしまったり、友だちの思いをしっかりと受け止めることができなくて苛立ったりして、普段は仲の良い友だち関係でありながらも、トラブルが生じることもある。

III 具体的な取組の内容

本校において、「子ども公民館」の実践を行うに当たり、「出雲市大社地域の活性化を目指す『子ども・若者公民館活動』」事業における期待される成果と、本校がこれまでの取り組んできた教育成果の比較検討を行いながら、今年度の重点内容を考えた。

本事業の期待される成果としては、次のような内容が挙げられている。

- ① 子どもたちが地域の活性化に向けて、地域に働きかけることで、地域の大人たちも、子どもが考えたことを応援し、子どもの姿に地域が動かされるようになることが期待される。
- ② 地域の連帯感を再び取り戻す。
- ③ ふるさとを愛し、生きがいの創出へつながる。
- ④ 出雲市を支える人材育成。

この中の、①、②、③については、本校がこれまで推進してきた「ふるさと教育」のね

らいとリンクすることから、本校では、「ふるさと教育」を核として「子ども公民館」活動を推進することとした。

本校における「子ども公民館活動」の基本的な考え方・体制を次のように考えた。

○テーマ

「ふるさと” すてきなようかん” 再発見！プロジェクト」

～人とかかわりを大切にし、人・地域から学び、ふるさとようかんを大切にしようとする子を育てる～

○ねらい

歴史と自然の共存する遙堪の地域すばらしさを、調査活動・体験活動をとおして感得し、ようかんを大切にしていこうとする心情・態度を養う。

調査活動・体験活動をとおして学んだことをまとめ、多様な表現活動で多くの人に伝えることにより、コミュニケーション能力を高め、自尊感情を育む。

子どもと、地域の方・保護者の方との交流活動をとおして、感謝・感動・生きがいを共有し、地域全体の活性化を図る。

○推進体制（イメージ図）



ふるさと教育活動を基盤として取り組むこととする。(4.5.6年生の活動を核とする)

4年生	5年生	6年生
※遙堪の環境クリーン隊 ※遙堪いいとこ大発見	※米づくりから学ぼう	※探して食べよう春の七草 ※感謝の気持ちを届けよう

※ 活動メインセンター … 図書室（「遙堪子ども公民館」）

※ 推進児童（6年）

本校における「子ども公民館活動」を開始するに当たって、推進児童である6年生（以

下「推進児童」とする)と活動のねらい・内容などについて話し合いをもつこととした。推進児童は、この活動の魅力(「この活動をとおしてどんな力が身につくか」として次のような点を挙げた。

- ★ 遙堪のいいところがよくわかるようになる。
- ★ 遙堪を大切にしていこうという気持ちが高まる。
- ★ 調べたことを発表したり、思ったことを発表したりして、自信がもてるようになる。
- ★ 地域の方とふれ合うことで、地域の方も喜ばれるだろうし、自分たちもそれで元気になれる。

(1) あいさつ運動

①「ハイタッチあいさつ」の推進



児童自ら、積極的にあいさつを行い、あいさつすることの心地よさを体得させるため、本校では、「ハイタッチあいさつ」を推進している。

児童同士、児童と教職員、児童と地域の方との「ハイタッチあいさつ」を行い、お互いに心地よさを体感し、温かい人間関係の醸成を図るようにしている。

「ハイタッチあいさつ」を重点的に取り組む場として、次のようなところを考え、取り組んでいる。

- ア 集団登下校時(主に、児童同士、児童と地域の方)
- イ 学校昇降口前(主に、児童同士、児童と教職員)

②地域あいさつ運動の推進

地域全体にもあいさつを広げようと、有線放送で、地域全体にもあいさつ運動を働きかけている。毎週月曜日に「あいさつしよう日」として実施しており、地域の方も、児童に積極的にあいさつをされている。

③あいさつ運動「P-D-C-A サイクル」の実施

毎週月曜日、本校では集団下校を行っている。全校児童が通学班毎に集まった際、「あいさつ運動」の自己評価、他者評価を実施している。特に、よかった点などについては全校に紹介し、広げていくようにしている。

(2) おもてなし運動

①「かがやくようかん・花いっぱい運動」

地域の方と、いっしょになってプランターに花を植え、通学路、学校の周辺の道路に置くこととした。通学路を通る人、学校へ来られる人が、ほっとした気持ちになったり、地域が大切にされているんだという気持ちを抱いていただいたりすることを願って取り組んだ。

【地域・保護者の方と苗を植えている様子】



【プランターを通学路に並べている様子】



②「ディナー・おもてなし」

遙堪コミュニティセンターの支援を受け、12年前より「通学宿泊体験」を実施している。

夕ご飯は、地域の方、保護者の方などの力を借りて作り、最終日には、保護者を招いて「食事会」を行い、日ごろの感謝を表すようにしている。



(3) PR活動

①「ふるさと”すてきなようかん”再発見！」遙堪から出雲市のみなさんへ本校の取組を、多くの方に知っていただくことが重要であると考えた。「島根日日新聞」の協力もあり、「いずも小学生新聞」に掲載していただいた。

平成24年(2012年)2月号【第7号】

いずも小学生新聞

4

ふるさと “すてきなようかん” 再発見

遙堪小学校

ようかん「子ども公民館」活動

私たちが遙堪小学校では、ふるさとを大切にすてきな宝物を進めています。

校区の遙堪、地域には、たくさん宝物があります。出雲風土記にも阿式社、というのが遙堪であると書かれています。とても歴史のある地域だということが分かります。また、学校のすぐ北側には北山をびえ、自然も豊かです。そして、遙堪に住んでおられる人たちは、このよきな歴史のあるものや、自然をとても大切にしながら、生活をしておられます。

私たちは、これまで、「ふるさと教育」として、遙堪の宝物を調べたり、ふれたり、関わったりしながら、勉強をしてみました。

1年生は、学校近くの宝物。
2年生は、町内にある宝物。
3年生は、ぶどうの宝物。
4年生は、自然の宝物。
5年生は、自然(米)の宝物。
6年生は、遙堪地域の人、自然の宝物。

学生それぞれに特徴のある勉強をしてみました。

昨年10月からは、勉強してきた内容をもっとすてきな宝物にしようと思い、このようかん取り組みを「ようかん子ども公民館」活動として深めていこうとしました。

活動の中心となる場所は「図書館」、活動の中心となった進めるのは、6年生です。この活動を支え、私たちがサポートしていただき、生として「足立先生」も学校に来ていただきました。

まず、6年生のみんな、この活動を通して、どんな力が身につくかな、ということを考えてみました。

ようかん「子ども公民館」活動を通して

- ★遙堪のいいところがよく分かるようになる。
- ★遙堪を大切にしていこうという気持ちが高まる。
- ★調べたことを発表したり、思ったことを発表したりして、自信がもてるようになる。
- ★地域の方とふれ合うことで、地域の方も喜ばれるだろうし、自分たちもそれで元気になれる。

島根日日新聞(平成24年2月8日発行第7号「いずも小学生新聞」)より



島根日日新聞（平成24年2月8日発行第7号「いずも小学生新聞」）より

②「ふるさと”すてきなようかん”再発見！」子どもたちのPR活動（「遙堪子ども公民館新聞」）

推進児童と担任が話し合う中で、遙堪小学校が取り組んでいることを児童がまとめ、地域の方たちに広げていこうとする取組（「遙堪子ども公民館新聞」）も始めた。

— 遙 堪 子 ども 公 民 館 新 聞 —



子ども公民館活動がスタートします

遙堪子ども公民館新聞

創刊号
NO.1
2012.2.3
遙堪小

今年度から、遙堪子ども公民館がスタートしました。この活動は、地区の皆さんに学校での様子を発信したり、地区の皆さんといっしょに交流したりすることで、日頃お世話になっている皆さんに元氣のお返しをしようとするものです。

小学校では、これから高学年が中心となって校内の活動の様子を新聞やホームページで発信していく予定です。

今回は、多くの皆さんにこの活動を知ってもらいたいと思い、新聞を作成しました。

創刊号では、今年度の遙堪子フェスタの様子をお知らせしたいと思います。

2月からは、ホームページでも情報を発信していきたいと思っておりますので、時間がありましたら遙堪小学校のホームページを見てください。

1年生は、「15ひきのねこ」という劇を発表しました。この劇は、たくさんの歌や振付がありました。15人がネコの役に入り込んでいてとっても可愛かったです。この「15ひきのネコ」という劇は、絵本『11ぴきのねこ』のお話をもとに作られた劇です。

これは、1年生が15ひきのネコになって、大川の大きい魚を獲るといってお話です。この劇の中には、1年生のみんなが、側転や前転などをしていて、1年生とは思えないスゴさでした。

これからも1年生の活躍を期待したいと思います。





2年生は「ようかんすてき大発見」という題で発表しました。生活科の学習で、実際に学校の近くにある「遙堀郵便局、吉やさん、荘厳寺、島根ワイナリー、遙堀コミュニティセンター」などに行きました。

遙堀郵便局では、ポストの中を見せてもらいました。吉やさんは、コマなどのおもちゃを木で作っておられます。大きな船の模型は、三十万円もすることや、十二支の置物の中では、蛇が一番人気があることを聞きました。七百年も前からある荘厳寺では、座禅にもチャレンジしました。

ワイナリーでは、工場見学をしました。一日9千本ぐらい、一年間では、60万本ぐらい作られていることや、タンクに入っているワインの量は、多いもので3万リットルもあることを聞きました。

コミュニティセンターでは、いろいろなからコミュニケーションと呼べるようになったか知りました。遙堀っ子フェスタ本番では、見学して分かったことをまとめ、各グループに分かれて発表しました。

発表の最後には、人気のマルマルモリモリを楽しく踊り、会場も拍手で盛り上がりました。



3年生は、「おいしいブドウになるまで」という劇を発表しました。

一学期からブドウ作りについて学習したことをまとめた内容でした。実際に、馬庭さんのブドウハウスまで行き、そこで3年生は、ぶどうのいるな秘密を覚えてもらいました。大粒で甘くなるには、じゃまな葉を切り落として日当たりを良くするそうです。

また、箱詰めする際にも、なるべく優しく、傷をつけず、実を落とさないように十分に気を付けているそうです。

近年は、「シャインマスカット」という品種も作っています。これは、これまでの「デラウェア」より大粒で、甘く、皮ごと食べることができます。しかし、これは作るのが難しく、温度を十七度に保たないといけません。

3年生は、真庭さんから学んだことをうまく取り入れとてもユニークな発表をしていました。

一 遙 堀 子 ども 公 民 館 新 聞 一



5年生は、「世界のはてまでイッテQ!」くつながる仲間」と発表しました。

この発表は、5年生のみんなが、テレビで放映されている「イッテQ!」のように、イモト役の人と一緒にいるな国へ行くという内容でした。この発表に出てきた国は、イギリス、エジプト、中国、韓国、日本の5か国です。

イギリスの紹介では紅茶やスコーンについて、エジプトではピラミッドについて、韓国では民族衣装のチマチヨゴリやキムチについて、日本では、2011年3月に起こった東日本大震災について発表しました。

5年生の児童の中には、復興に協力するために歯ブラシなどを被災地へ送ったという人や、家で、土から放射能物質を吸収する効果があると言われているひまわりを育てて、そのひまわりの種を被災地へ送ったという人もいました。

最後には5年生24人の心を一つにして「ピリッ」を歌いました。短時間の発表の中で5つの国について詳しく発表して、いる点がいっぱいと思えました。

4年生は、「遙堀っ子のことわざ教室」ということわざについての発表をしました。

発表の内容はとてユニークで、アニメ「サザエさん」を取り入れて、サザエさんに出て来るキャラクターを一人一人が演じ、物語の中のことわざを入れていました。

発表されたことわざの中には、「猫に小判」や「うそつきは泥棒の始まり」など知っているものもあれば、「船頭多くして船、山に登る」や「取らぬ狸の皮残用」など知らないものもあり、とても勉強になりました。

また、アニメ「サザエさん」に出てくるカツオの心の声の内容がおもしろく、遙堀っ子フェスタを見に来てくださいました。

保護者や児童の多くが笑っていました。

後で、どの学年の発表が面白かったかの話題になったとき、6年生と答える人が多かった中、4年生という人も結構いたほどでした。



【地域の方との語らいの場面】



【4年生の発表の場面】



IV 成果と課題

(1) よかった点

①児童の意識の変容

活動のねらいを明確に設定し、児童とも話し合う時間を設定して取り組むことにより、体験をとおして児童の学び取る内容に変容が見られた。

○6年生（女子）特別養護施設の訪問を終えて

ステージに立ってみると、「本当に楽しんでもらえるかなあ」と思いました。

おじいさん、おばあさんの表情を見てみると、すごく笑っている人、中には、ハンカチでなみだをふいている人もいました。最後にあいさつをして帰るとき、ずっと拍手をしているおばあさんがいて本当にうれしかったです。笑顔でわたしたち一人一人の顔を見ながら拍手をしている姿がすごく心に残りました。

おじいさん、おばあさんに少しでも元気と笑顔を送ることができたかなあと思います。これからも、この笑顔が続くといいなあと思います。

②関係者・関係機関との連携強化

地域を核とした教育活動を推進し、教育成果をあげるためには、多くの地域の方の支援が必要である。今年度行った「子ども公民館活動」にも多くの方に支援していただいた。地域の方からは、「子どものためだから」「元気がもらえるから」と言っていた。子どもたちは達成感とともに、地域とのつながりの大切さを学び取ることができた。

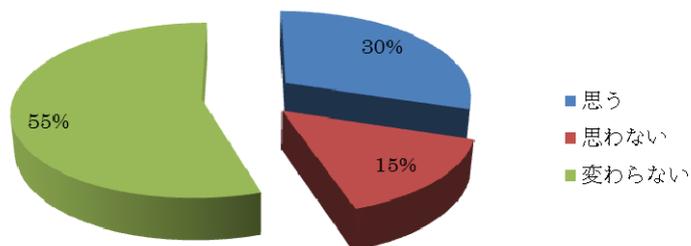
(2) 課題と次年度の計画

①価値ある「子ども公民館活動」の展開

本活動と、地域活性化との関連をアンケート結果からみると（教職員・地域の方・保護者）、「変わらない」「思わない」では70%となっている。魅力ある活動を計画的に実施するとともに、関係機関と連携し取り組んでいきたい。

来年度は、学校近くのワイナリーも活動の場とし、観光客等にもアピールできる活動を展開していきたい。

子ども・若者公民館活動が地域の活性化につながっている



うさぎ 鶺鴒小学校子ども公民館の実践

I 地理的な特色

鶺鴒地区は、島根半島の西端、出雲大社の奥、日御碕の隣、山と海に囲まれた地域に位置し、鶺鴒（うど）と鶺鴒浦（さぎうら）からなる人口250人余りの小さな漁村である。かつては北前船の風待ち港として、また、銅や石膏の積み出し港としても賑わっていた歴史をもつ。

現在では過疎化、高齢化、少子化が悩みの地域であるが、海、山、川のある美しい自然や古民家のある街並み、シャギリ舞いという伝統芸能など、他にはない良さが大切に守られている地域でもある。地域の人々にとって、子ども達の存在は明るい希望の星であると言える。



また、地域住民の諸活動への参加は熱心で、近年、鶺鴒地域ならではの資源を生かした町おこしの機運も高まってきている。

II 児童等の実態



本校は、全校児童6名、完全複式の極小規模校である。「郷土を愛し心豊かでたくましく生きる子どもの育成」との学校教育目標のもと、豊かな自然・歴史・文化・人材等を生かし、地域と一体となった教育活動が行われている。そして、「郷がえり運動会」「郷づくりフェスティバル」等、地域の人とともに活動し交流を深め、関わり合うことを大切にしている。

児童は、素直で、学習や活動に対して一生懸命取り組む。また、上級生が下級生を気遣ったり、助け合ったりすることも自然にできる。一人一人が主役になる場面も多く、さまざまな体験を通しての豊かな学びが出来ている。

同年代児童と関わる経験が不足しがちであるため、月2回程度近隣小学校での集合学習の機会を設け、児童はそこで大切な経験をしている。

こうした特色を生かしながら「自ら進んで学ぶ子ども」「友達を大切に自分らしく生きる子ども」「健康づくりに取り組む子ども」「ふるさとを愛し誇りをもつ子ども」の育成を目指し、一人一人の個性を大切にした教育が行われている。

III 具体的な取組の内容

(1) 「子ども公民館活動」の基本的な考え方

「子ども公民館活動」への取組については、他校とは異なり、全校児童、しかも1～6年生まで各学年1名ずつで行うことになるため、低学年児童にも分かりやすく、主体的な活動ができるような配慮が必要となる。

そこで、まず、この活動の意味をはっきりさせるために、「元気なうさぎ小の子たち

がうさぎ地域～さらに大社町・出雲市・島根県～を元気にする活動」いうことで「元気うさぎ活動」という呼称を使うことにした。そして、全員がアイデアを出し合い右のようなマスコットキャラクター(名前は「元気うさぎ」)を作って、活動のシンボルとした。

これらのことで、児童にとって活動自体が身近なものにとらえられるようになった。



また、教職員との話し合いでは、基本的な考え方として、次の①～⑦のように意思統一を図った。

- ① これまで行ってきた、地域との連携による教育活動を、「子ども公民館活動」の視点を意識しながら展開する。また、地域の活性化の観点から、無理なくできる活動の充実を図る。
- ② 学校教育目標にしたがい、「子ども公民館活動」の核を「ふるさと教育」に据え、全体計画を立てて実施する。
- ③ 活動のねらいや「子ども公民館活動」との関係性を明らかにするために、地域との活動を、『ささえられる』『ふれあう』『ともにする』『つたえる』という4つの視点に立って見直す。また、全校活動、学校行事、各学年の「ふるさと教育」の活動をこれらの視点を踏まえて実施する。
- ④ 上記の考え方をもとに、4つの視点を明記した年間指導計画を立てて実施する。
- ⑤ 活動のイメージ化を図るための構想図を作成し(下)活用する。

「元気うさぎ活動」イメージ図



- ⑥ 低学年児童にも分かりやすく、主体的な活動を促すため
 - (ア) 「子ども公民館活動」の呼称を、「元気うさぎ活動」とする。
 - (イ) 「元気うさぎさん」のキャラクターを、活動のシンボルとする。
- ⑦ 発信(学校が地域を元気にする)の充実化のために
 - (ア) ホームページで学校での活動の様子をタイムリーに発信する。
 - (イ) 掲示物(活動の様子等)による広報活動をする。(校内、コミセン等)
 - (ウ) 花による地域への元気づけをする。(鶺鴒地域の公共的施設)
 - (エ) 生活・総合の学習のまとめをリーフレットとして作成し、地域から学んだことや地域の良さを発信する。(大社町内の観光施設)

(オ) その他の可能な方法で発信する。

以上①～⑦の考え方のもとに、これまで地域と一体となつて行われてきた活動に「子ども公民館活動」という視点を加えて実践していくこととした。

(2) あいさつ運動

本校では、活動の度にお世話になった方への感謝の思いや感想など、一人一人に必ず発言の機会を与え、言葉で思いを表現する力を育てようとしている。また、日常の挨拶については、地域や学校を元氣な挨拶で包もうと次のように取り組んでいる。

① 児童会による「あいさつ運動」

児童会の話し合いで「笑顔で、元氣な大きな声で、自分からあいさつをしよう」という目標を決め、自分の挨拶態度を右のカードを利用して日々振り返っている。



② 町内小中一貫教育の実践活動による「あいさつ運動」

強調週間に校門に挨拶運動ののぼりを立てて、町内の小中学校の友達と一緒に「あいさつ運動」に取り組んでいる。

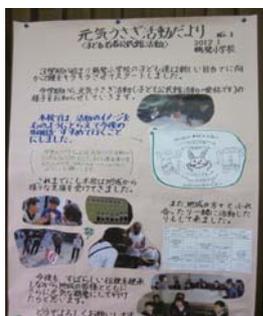
(3) おもてなし運動

コミセンや町内会の方と一緒にプランターに花苗を植えて町角に飾ったり、学校で育てたヒヤシンスの水栽培を郵便局などに置いたりしている。また、釣り客など地域外からの来客には、進んで挨拶をするようにしている。

(4) PR活動

① ホームページの充実

学校のホームページに「子ども公民館活動」のコーナー（右は、その表紙）を設け、活動状況を写真と文章とで発信している。



② 「元氣うさぎだより」（子ども公民館活動の掲示物）掲示

児童の活動の様子を紹介する記事「元氣うさぎだより」を模造紙に書き、コミセンやデイサービス施設に掲示して、地域へ子どもたちの元氣を伝えている。

③ 鶺鴒地域の公共的施設へ花の展示

地域に住む人々を元氣にする活動として、ヒヤシンスやチューリップの球根をペットボトル容器に水栽培し展示した。



④ 「ふるさと学習」のまとめリーフレット作成配布

2月末に、子どもたちが地域から学んだことをリーフレットにしてまとめた。これを3月に鵜鷺地域と町内の観光施設とに届け、配布する予定である。

(5) 地域活動への参加と発信

① 「ともにする学校行事

「郷がえり運動会」や「郷づくりフェスティバル」など、地域とともに開催する学校行事において日ごろの学習の成果を発表することで、子どもたちの元気を地域に届けている。



② コミセン企画行事

学校の振替休業日等のコミセン企画行事に、都合のつく児童がすすんで参加している。左の写真は、2月に町内の皆さんと一緒に花の苗植えをしている様子である。このプランターには、児童のメッセージをつけて地域のおもてなし活動にも生かされる予定である。

③ 地域の植樹事業

3月には、本年度2回目の植樹活動がある。地域の町おこしグループ「鵜鷺げんきな会」の方が鷺峠の山に柿を植樹され、児童全員がそれに参加する予定である。

④ 鵜鷺を紹介するリーフレット配布

現在、鵜鷺地域の紹介と、ふるさと学習で地域から学んだことをまとめたリーフレット「元気うさぎだより」を作成中である。これを、町内の観光施設（歴史博物館、電車駅、吉兆館、うらら館、香りプレッセ、ワイナリー）に配布し、県外から来られた方にも読んでもらいたいと考えている。

IV 成果と課題

本年度の「子ども公民館活動」を実践のまとめをするにあたり、児童と地域学校運営理事会、保護者、教職員からアンケートをとった。

(1) 考察

① 児童のアンケートから

・児童の活動への参加の仕方は概ね積極的にでき、ほとんどの児童が活動によって地域が元気になっていると感じている。



・すすんで挨拶することについては、もう少し努力したいと答えている児童もいるが、概ね肯定的に評価している。

<児童の感想より>

- **これからは、笑顔であいさつ、自分から進んであいさつすること、大きな声であいさつすることをがんばって、うさぎをもっと元気にしていきたいです。**
- **まち探検で「ほっと八千代」に行き体そうしたり遊んだりしておばあさんたちが元氣になられました。**
- **「郷づくりフェスティバル」では、地域の人に喜んで聞いてもらったし、「郷がえり運動会」では地域の人も参加して、「リレーを楽しんでみたりやったりして、いいなと思いました。**
- **みんなで決めてかわいいキャラクターができてよかったです。「敬老の日のプレゼント渡し」でみなさんととても喜んでくださってとてもうれしかったです。「郷づくりフェスティバル」「郷がえり運動会」を一緒にやるととても楽しかったです。**



- **たくさんの行事で、地域の皆さんがたくさん参加して下さって、私も元氣になりました。これからも自分にできることで地域を元氣に明るくしていきたいです。**
- **地域の方々と交流をして、お話をたくさんしてふれ合ったりできました。自分からあいさつしていきたいです。**

② 地域学校運営理事会理事、保護者のアンケートから

大社地域の「子ども・若者公民館活動」についてはほとんどの方が「知っている」と答えている。また、その活動としては、「あいさつ運動」「おもてなし活動」についてはよく知られているものの、「地域活性化活動」「地域PR活動」についての認知度にはばらつきがある。

また、本校における「元氣うさぎ活動」については、「地域の活性化につながっている」とほとんどの人が回答しているが、「あまり思わない」と感じている人もいる。

これらのことから、この「子ども・若者公民館活動」の趣旨と意義は、児童・地域に一定の理解と評価を得てはいるが、十分な成果にはまだ至っていないと考える。

(2) 課題と次年度の計画

- ① この活動はまだ緒に就いたばかりなので、次年度以降はこれを継続することが課題であるといえる。
- ② 次の表は、活動の核となる「ふるさと教育」の次年度指導計画である。前述<<Ⅲ(1)>>の基本的な考え方をもとに、次年度は、本年度の実践を踏まえ「**地域が学校を元氣に、元氣な学校が地域を元氣に**」という好循環づくりを目指していきたい。

<<平成24年度「ふるさと教育年間指導計画」>> (実態によって変更もある)

※**ふれ**:(ふれあう活動) **つた**:(伝える活動) **とも**:(ともにする活動) **ささ**:(支えられる活動)

	1・2年	3・4年	5・6年	全学年							
一学期	町たんけんパート I (生) ふれ ・鷺浦にあるみんなのしせつ ・「あせかき仁王」「こうはく寺のおじぞうさん」 つた わらびがり(生) つた 絵日記をかく(1年国) つた 敬老の日のプレゼント作り(図) つた・ふれ	まち探検をしてマップにまとめよう(社) つた うさぎにはどんな動植物がいるのか調べよう(理) ふれ 「うさぎのわかめの養殖」を体験しよう(総) とも	ゲストティーチャーをすいせんしよう(5年国) つた	シヤギリ舞い/囃子(クラブ) とも 鷺鷥を探検しよう(生・総) とも グラウンドゴルフ(体) ふれ グラウンドゴルフ(体) ふれ 郷がえり運動会(体) とも	鷺鷥の山に植樹をしよう(生・総) とも	鷺鷥の山に植樹をしよう(生・総) とも	鷺鷥の山に植樹をしよう(生・総) とも				
二学期	敬老の日のプレゼントわたしく準備、手紙、実施)(国・生) つた・ふれ じゅんじょよくかこう(1年国) つた ありがとうを伝えよう(2年国) つた・ふれ 町たんけんパート II (生) ふれ・とも リチャードさんとの交流会をしよう I (生) とも・ふれ 言い伝えられているお話を知ろう(2年国) つた	敬老の日のプレゼントわたしく準備、手紙、実施)(国・総) つた・ふれ 「うさぎのわかめの養殖」について発表しよう(総) ささ 古い道具、昔の鷺鷥の生活について調べよう(社) ささ 運動会、フェスティバルの案内状を作ろう(国) ふれ ゲストティーチャーさんに聞こう(国) ふれ・ささ・つた	敬老の日のプレゼントわたしく準備、手紙、実施)(国・総) つた・ふれ フェスティバルを成功させよう(総) つた 地域の風景・ふるさと鷺鷥を描こう(図) つた 地域の高齢者と交流しよう(総) つた					シヤギリ舞い/囃子(クラブ) とも 鷺鷥を探検しよう(生・総) とも グラウンドゴルフ(体) ふれ 郷がえり運動会(体) とも	鷺鷥の山に植樹をしよう(生・総) とも	鷺鷥の山に植樹をしよう(生・総) とも	鷺鷥の山に植樹をしよう(生・総) とも
三学期	むかしあそびを楽しもう(生) とも・ふれ リチャードさんとの交流会をしよう II (生) とも・ふれ たのしかったね 1年生(1年国) つた 「思い出ブック」を作ろう(2年国) つた	「うさぎのわかめの養殖」についてまとめよう(総) つた うさぎの歴史を調べよう(社) ふれ うさぎ歴史新聞を作ろう(国) つた リチャードさんとの交流会をしよう(総) とも・ふれ	ふるさとの良さを紹介しよう(国) つた 地域の高齢者といっしょに活動し、自分たちができることを考えやってみよう(総) ふれ・つた 鷺鷥の未来について考えよう(総) つた								

日御碕小学校子ども公民館の実践

I 地理的な特色

出雲大社から西に約9km、島根半島の西端にあり、地区の大半が海に面している。日御碕神社、東洋一を誇る灯台、うみねこの乱舞する経島など名勝や自然の景観に恵まれて、国立公園に指定されている。一部は海中公園にもなり、島根県を代表する観光地である。

以前は漁業が盛んであったが、漁業従事者の高齢化、後継者の減少もあり、近年漁獲量は減少している。



未来に向けて、自然活用型の観光地づくりや産業再生など地域の総力を結集してやっていくことが望まれる。

保護者は、学校行事やPTA活動に積極的に参加するなど、教育への関心は高く、また地域住民も勤勉で、学校教育にはきわめて協力的である。

II 児童等の実態

日御碕小学校児童数 H23 年度

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
0	4	3	3	4	5	19 名

児童数は近年減少傾向にあるが、地域や、幼稚園、コミセンなどとの連携、児童や保護者への働きかけもし、学習面での個別対応の強化と工夫等、少人数をいかした学習、教育に努めている。

ふるさと学習の推進に力を入れ、地域、保護者と連携をはかりながら取り組んでいる。日本や日本人の素晴らしさに誇りを持たせる「ふるまい向上」や、同和教育との関連も深めた「生命を考える教育」への取り組みを強化している。

児童は、地域のことに興味を持ち、積極的に地域とかかわりを持つ活動に取り組んでいるが、実際観光地のことについては漠然とした知識しかなく、これからは地域の良さ、歴史なども含めて知らせていきたい。



III 具体的な取組の内容

(1) あいさつ運動

今までの町内一斉の取組、学校の取組を拡げていくことで、知らない人であっても出会った地域の方、観光客に積極的にあいさつをする。

(2) おもてなし運動

①パンジーのプランター配り

灯台周辺の売店、観光案内所にプランターにパンジーを植え、児童のメッセージボードをつけ、置いた。(コミセンとのわんぱく隊活動、学校での活動)

○11月の小学校代休日に、地域の方、小学生、幼稚園、

ひよこサークル(乳幼児子育てサークル)に広く声をかけ、灯台売店・観光案内所に置かせてもらうプランターにパンジーを植えた。

○後日、小学校で全員がメッセージボードにイラストやメッセージを書いた。

○12月、日御碕小学校児童が直接売店、観光案内所に手渡しに行った。



地域の方と一緒にプランターに花を植えた



ひよこサークル、地域の方も一緒に…



白の下敷きに、子どもたちのメッセージやイラスト描き、プランターにつけた



全校で灯台周辺の売店や観光案内所にプランターを渡した

②バレンタインにメッセージ入りチョコ配り

バレンタインに灯台、大社の香りプレッセで、児童のかいたメッセージやイラストの入ったチョコレートを、担当の方に配ってもらった。(コミセンとのわんぱく隊活動)



日御碕に来られた方へのメッセージ、大社に来られた方に、日御碕にも来てください!というメッセージをかいた



観光客の方に喜んでもらえたら…と、チョコレートとメッセージを袋詰めし、さっそく灯台、大社の香りプレッセに持って行った

(3) PR活動

①メッセージボード作り

灯台周辺の売店、観光案内所にプランターにパンジーを植え、児童のメッセージボードをつけ、置いた。

②大社神門通り「香りプレッセ」への掲示

大社香りプレッセに、日御碕小学校の紹介と日御碕のPRメッセージやイラストポスターを総務委員がかき、掲示してもらった。



大社香りプレッセ
メッセージ入りチョコをプレゼント



大社香りプレッセに、学校紹介と日御碕
PRポスターを貼った

③観光客へのPRメッセージ作り（日御碕灯台・大社 香りプレッセ）

バレンタインデーに日御碕灯台で、児童が書いた「ようこそ日御碕へ」のメッセージやイラストをつけて観光客の方に渡してもらった。

香りプレッセでメッセージ入りのチョコレートを観光客に渡してもらった。

(4) 地域活動への参加と発信

①もちつき大会参加

地域の方と一緒にもちつきに参加した。（2年生）



②独居老人宅訪問

ミニ門松を作り、一人暮らしの高齢者のお宅を訪問しプレゼントした。

日御碕も一人暮らしの高齢者がたくさんいる。普段なかなか子どもたちと会う機会がないその方たちへのプレゼントとして子どもたちはミニ門松作りをした。他のコミセンサークルさんのプレゼントと一緒に、民生委員さんも交えて訪問し渡した。

(コミセンとのわんぱく隊活動)



地域の方に門松の意味や作り方を教えてもらいながら、ミニ門松を作った



一人暮らしのお宅に、赤飯やミニ門松、小物入れのプレゼントを渡しに行った

③七草がゆ作りと昔のあそび

地域の方と一緒に七草がゆを作り、昔からある遊びや正月遊びをした。昔からの風習である七草がゆも、最近では作らない家庭も多い。七草がゆを作る意味や、どれが七草かを地域の方に教えてもらいながら作った。(コミセンとのわんぱく隊活動)



実際に七草をみて名前を覚えてもらった 大人でも名前と実物が一致しない人も…



1年間元気ですごせませうようにお願いしながら、大人も子供も一緒に七草がゆを作った



地域の方も参加してかるた大会こままわしや、福笑い、けん玉など大人も実力発揮して楽しい時間をすごした

④地域の方とのプレゼント作り

地域の方も参加し、バレンタインに大切な人にわたすためチョコレートを作った。バレンタインは女の子のもの…というイメージがあるが、今回は参加者全員でクッキングでチョコレートをプレゼント用に作り、プレゼントする人を思い浮かべながら、トッピングしたり、ラッピングしたりした。(コミセンとのわんぱく隊活動)



経験ある子どもは手際よく、班ごとに協力し合いながらチョコレートを作った それぞれ自分が作ったチョコをラッピング



早速ひよこサークルにいたいここにプレゼント

⑤学校行事や授業の公開

〇いきいき発表会 (11/26)

小学生の子どもを持つ家庭以外にもたくさんの地域の方に見てもらえた。2年生は9月に地域の方に昔話を聞きに行き、今回その話を劇として発表した。



地域の方を訪問し、昔話を聞く（9月）
この豆六の話を劇に…



豆六の劇で使ったカツラは、話を聞かせてくれた方の手作り



幼稚園も一緒にいきいき発表会
全校合唱

○弁論大会（2/12）

毎年恒例の弁論大会。全校生徒がそれぞれの視点でみんなの前で発表する弁論大会には、毎年たくさんの保護者、地域の方が来られる。普段少人数ですごく児童にとって大勢の前での発表は貴重な経験だった。



⑥ひよこサークル（乳幼児サークル）との交流会（3、4年生）

自分たちでどうやったら、まだ小さい子どもが多いひよこサークルに喜んでもらえるか考え、おもちゃを作ったり、大型絵本を読んだり、宝探しをしたりして一緒に遊んだ。

下に兄弟姉妹がいない児童や、最近乳幼児に触れ合わない児童にとってはだっこするのも苦戦していた。



⑦エコバック製作活動

コミセンでされた『ステンシル』の活動に、手作りクラブの児童が参加した。初めて経験する児童が多かったが、講師の先生に教えてもらいながら、地域の方と一緒にエコバッグにステンシルでそれぞれデザインし作成した。



⑧幼稚園作品展訪問

幼稚園の作品展に見に行き、一緒にゲームをしたり、合唱や合奏などの発表を聞く。普段から幼稚園との交流は多いが、今回は幼稚園の作品展でたくさんの作品展示の見学と、一緒に楽しめる的あてや魚釣り、かるたなどを一緒に楽しみ、発表も見させてもらった。幼稚園児は今年度3名の在籍で、少人数で過ごすことが多いの



で、にぎやかな中で小学生との交流を楽しんだ。

⑨「子ども公民館だより」

子ども公民館で行った活動は、『子ども公民館だより』を作成し、保護者、地域の方に広く発信している。これによって学校での様子の一部、参加していない保護者、地域の方も児童の活動の様子を知ってもらえた。

⑩学校ホームページで情報発信

日御碕小学校ホームページに、『こども公民館』のページを作り、情報を発信した。「子ども公民館だより」は、このホームページからも見ることができる。

(5) その他

①障害のある方たちとの交流（5，6年生）

10月には、児童が大社にある「就労継続支援B型事業所なかよし」に行き施設を見学し、交流した。

11月には、いきいき発表会に招待し、一緒に歌を歌ったり手話をしたりした。

12月には、児童が出雲養護学校に行き施設を見学し、交流した。



②日御碕の地域を知る

○日御碕の地層を見学



○学校島で海苔つみ、海苔成形

1月の晴天の日、学校島で海苔つみをした。毎年のことなので児童も手慣れた様子でやっていた。翌日海苔を洗い、きれいに成形した。

学校の給食時に1年を通じてその海苔を食べる。



○日御碕の海について学習

日御碕の海についてアクア工房の岡本さんに話を聞いた。

「マリンブルー」という団体で日御碕地区の海浜、海岸、海底の清掃を通して、環境保全活動をしている岡本さんに、日御碕の海底神殿と思われる映像や、日本で一番たくさんエイが集まる日御碕の海を見せてもらいながら話を聞いた。後日、児童は『日御碕の海底 ミステリーワールド』という作品を作った。



IV 成果と課題

(1) 成果

今まで地域とのふれあい活動や、地域を知る活動を数多く行ってきた。今回さらに積極的にかかわる活動をし、直接「ありがとう」と言われたり、涙ながらに喜んでもらったことは子どもたちの心に強く響いたようで、「おもてなし」や「地域の方や観光客の方に喜んでもらう」ということに喜びを感じたり、もっとこんな活動をしたいなどの積極的な意見が聞けるようになった。

これまで、家庭に小学校の児童がいないと小学校のことをあまり知らなかったり、学校にきていろんな活動をされる方以外の地域の方は、学校を遠い存在に感じていた人も多かったように思う。近くに児童が出かけて行き、共に活動したり、近くにきた児童の姿を見たりしたことで、地域の方にも喜んでもらえ、実際にそういう声をその現場や違う折に話してもらえ、これまでより地域と学校の距離を身近に感じた方が少しずつだが増えたようだ。

学校便りなどでこれまでも情報発信してきたが、地域の方と話してみて、児童数が少ないのは知っていてもこんなに少ないことは知らなかったとか、今どんな子どもさんがいるのかも普段見ないからわからなかったなど地域の方の声が直接聴けた。

コミセンと密接に連絡しあい、共に活動したことで活動の幅も広がった。学校の休業日にしたわんぱく隊活動も以前よりも参加率が高くなった。

学校の職員も休みの日の児童の活動の様子を「子ども公民館だより」やホームページで知ることができた。

(2) 課題と次年度の計画

(課題)

今年度は11月からと年度途中からの活動であったため、最初から計画的に活動を行うことができなかった。これまでしてきた活動にも「子ども公民館活動」に通じるものも多く、これを中心にコミセンとの連携を図りながら新しい活動も行った。

実際アンケートをとってみると、保護者は子どもが、かかわっているので、認知度も高く成果を感じている方も多かったが、地域の方は認知度も期待度も低い人が多かった。今年度は、大人側からの働きかけに児童が参加することが多かったが、地域の方や児童の声、

要望も聴けたので来年度はその声を大事にしてさらに活動を進めていきたい。

今回、『観光地である日御碕』ということで児童がメッセージやイラスト、PRポスターをかいたが、その際に児童が「日御碕灯台」「日御碕神社」が有名な観光地であることは知っていても、それについての知識はほとんどないことに気付いた。自分たちで本やパソコンで調べるなどいろいろな知識の得方はあると思うが、それと並行して地域の方にも力を貸してもらいながら、『自分たちの住む日御碕』について教えてもらい、理解を深めることでふるさとを愛する心を持ってほしい。

この活動はまだ多くの地域の方には認知度も低く、一緒に活動に参加する方も限られている。たくさんの方に知ってもらい、一緒に活動していくためにも、積極的に地域に出かけて行き、情報発信して呼びかけていきたい。

今年度の活動で、一人暮らしの高齢者にミニ門松を持っていったが、その方たちは子どもたちの姿を見て、話をすることをとても喜ばれていたし、もっとそういう機会があればと望んでおられる。運動会、発表会、参観日など学校に案内することはできるが、実際自分たちから出かけて行って子どもたちの姿を見るのは難しいと話された。児童の意見も聞き、かかわりを増やしていくよう来年度は考えたい。

(次年度の計画)

* あいさつ運動

○出会った人に元気な声であいさつする。

* おもてなし活動

○地域の公共施設や観光施設に鉢植えやプランターの花を持っていき、日御碕を飾る。

○清掃活動をし、きれいな日御碕にする。

* PR 活動

○日御碕（大社町）のPRをする（修学旅行でリーフレットを配ったり、日御碕、大社の観光地に子どもたちのポスター、メッセージなどを貼ったりする。）

* ふれあい活動

○地域の方との活動をする。（コミセンとの共同活動など）

○普段学校に来られない地域の方とのふれあいを大切にする。

* ふるさとを知る活動

○日御碕の地域のことを知る。

（本や資料、パソコンを使って調べる。地域の方の話を聞く。実際に行ってみるなど）

○日御碕の地域の方がコミセン活動としてやっておられる「ふるさとまるかじり」の方たちと、児童と一緒に日御碕地区を探訪し、いろんな話を聞かせてもらい、日御碕マップ作りをする。

○日御碕ならではの活動（魚釣り、海苔つみ、和布刈り神事の参加など）をする。

* 情報発信

○学校だより、子ども公民館だよりで学校の様子、活動の様子を発信する。

○学校ホームページで学校の様子、活動の様子を発信する。

* その他

○学校、コミセン側からの発信だけでなく、実際に地域に出かけていき、直接いろいろな方の意見を聞かせてもらいながら、できる活動を広げていく。

3. まとめ

地域学校運営理事会やボランティアなど地域によって支えられ、元気になってきた学校が、各教科、ふるさと教育などにより身に付けたことをもとに、今度は地域に働きかけ、地域を元気にしようということで、半年間取り組んできた事業であった。新たなことを始めるのではなく、今までやってきたことを地域の活性化という視点から捉え直し、活動を進めてきたが、成果としては次のようなことが挙げられる。

- ・子どもたちが、地域のことに今まで以上に興味を持ち、地域のよさをますます実感し、地域の活性化を自分のこととして考えることができた。
- ・小学生、中学生がいない家庭にとっては、学校が身近に感じられるようになり、学校と地域とのつながりが深まった。
- ・子どもたちの活動する姿から、保護者や地域の大人が自分たちも頑張らないといけないという意識が芽生え、地域活性化のサイクルが生まれ始めている。
- ・子どもたちが、今まで行っていた活動に対して、自分たちの力で地域を元気にできるという意識をもって、意欲的に活動に取り組むことができた。
- ・これまでの地域発信での子どもの意識は、学んだことを見てもらう、知ってもらう、自分たちの発表はうまくできたかというものだったが、地域の活性化ということを意識するようになり、自分自身の出来栄だけでなく、相手の受止めまで考えるような児童の意識の変容が見られた。

一方、課題としては次のようなことが挙げられる。

- ・「子ども・若者公民館活動」の取組について、地域や保護者の認知度が地域によって差があること。
- ・年度途中からの取組で教職員の共通理解が不十分でのスタートであったため、なかなか計画的に進めることができなかったこと。
- ・関係者間、学校間の連携や問題意識の共有が十分でなかったこと。
- ・「子ども・若者公民館活動」の趣旨と意義については、児童や地域に一定の理解と評価は得ているが、まだまだ十分な成果には至っていないこと。などが挙げられる。

「子ども・若者公民館活動」に取り組むことにより、学校と地域双方の課題を解決し、地域の賑わいを取り戻すことを目指してきた。学校は、地域の活性化という今までになかった視点から、これまで行ってきた活動を捉え直すことにより、子どもたちの意識にも変化が見られるようになってきた。そして、自分たちも地域のために役に立っていることを実感し、自信をつけ始めているように感じている。しかし、そうした、学校から地域への働きかけに対して、地域と学校の活性化のサイクルが生まれ始めてはいるが、地域の大人の意識は十分高まってきたとはいえない。次年度は、その学校ならでの取組を進めるとともに、学校ごとの工夫を生かしながらも、共有できるものは共有し、地域の大人を動かし、大社地域全体の学校と地域の活性化の好循環づくりが進むよう取組を推進していくことが必要である。